

# つながる手と手

～はなかわからの

メッセージ～



第12号

もくじ

- 新年のご挨拶
- 第15回 石狩リハビリテーション・地域連携懇話会のご報告
- 国内初！<sup>(株)</sup>モリト製 据置型安全懸架装置  
(免荷歩行機器)を導入しました
- 「地域包括ケア病床」を始めました！
- 「笑顔」から気持ちがつながる心温まる接遇
- まめ知識「いざという時にあると便利な薬～その2～」
- 生まれも育ちも北海道！プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」
- 医師紹介「下道 正幸 医師」
- くつろぎ空間「はなリビング」のご案内

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

本年も昨年同様穏やかで暖かい新年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃より当院ならびに医療法人喬成会の運営に対しご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、一昨年前に開設しましたサービス付き高齢者向け住宅「花びりか」が一周年を迎え、当院外来時間延長に伴うリハビリテーション外来の充実、地域包括ケア病床スタートと安定と飛躍を感じる一年となりました。

地域包括ケアシステム構想の中で、当院に求められる役割期待も高く、患者さん並びに地域の皆さんへより充実した医療を提供し、また、医療と介護のより強固な連携を図っていきたくと考えております。

今後も、患者さん・ご家族のニーズを第一に考え、急速に変化する社会・医療情勢など見据えながら更に信頼と安心を提供できる病院を目指し進んで参りたいと思います。何卒よろしくお願い致します。

花川病院 院長 憲 克彦

## 第 15 回 石狩リハビリテーション・地域連携懇話会のご報告

平成 28 年 11 月 1 日、講師に北海道科学大学保健医療学部義肢装具学科の野坂利也先生をお招きして、第 15 回石狩リハビリテーション・地域連携懇話会を開催しました。「装具療法のエビデンスと義肢装具の最近の動向」と題し、PT・OT・DR・MSW・CM などたくさんの専門職の方に参加していただきました。



脳卒中の後遺症として多い歩行障害ですが、多くの患者さんは「歩行できるようになりたい」と考え、リハビリでは装具を使用しての歩行訓練が行われることがあります。装具を使用しての歩行は歩行量を増やすという利点の他、患者さんのモチベーションの向上という利点もあります。一言で『装具』と言っても短下肢装具・長下肢装具に分類され、また背屈・底屈、関節運動の方向や制限や補助など必要な機能によっても更に細かな分類がされており、患者さんの状況に応じて様々な装具の選択をする必要があります。また、下肢や上肢を切断した患者さんには、義足や義手という選択肢もあります。これも様々な種類があり、患者さんの状態やどのように使用していくのかによって選択するものも違ってくるといった内容でした。講演の中では、装具の写真や実際に装具を装着しての歩行の動画なども交えてわかりやすくお話いただきました。



懇話会には 100 名近い専門職の方々に出席いただき、実際現場で装具を使用しているリハビリでの疑問点などの質問も多く、明日からのリハビリに役立てることができるような講演でした。

懇話会終了後の懇親会では、野坂先生へ会場では質問しきれなかった事を質問する姿も見られ、「より患者さんに効果的

なりハビリとは？」ということについて他職種で考える貴重な機会となりました。

今後も、皆さまに役立つ情報提供や交流ができるよう、懇話会を開催していきたいと考えております。(保健師いけだ)

## 国内初！(株)モリトー製据置型安全懸架装置(免荷歩行機器)を

導入しました

花川病院リハビリ部に新しいリハビリ機器として、待望の(株)モリトー製据置型安全懸架装置(免荷歩行機器)を国内初導入しました。最上階の眺めが良く、256m<sup>2</sup>の院内で一番広いリハビリ室に2本のレールを設置しました。



安全懸架装置(免荷歩行装置について説明します。

今までの歩行練習の常識を覆す、全く新しい歩行システムでセーフティサスペンションシステムを採用しています。そのシステムとは、あえて『安全な危険』を作り出し、スプリングハンガーの採用により、快適な歩行を実現します。



『安全な危険』とは、「介助しない歩行練習の実現」であり、練習者が「結果を体感」できます。そして、セラピストの「安心感が効率の良いリハビリ」を提供します。つまり、転倒しても懸架装置でしっかりとサポート(安全な転倒)され、転倒するギリギリのラインもしくは転倒しても安全を保障・体感できるシステムです。

免荷歩行にて適切に体重を免荷し、脳血管疾患、運動器疾患など多様な疾患を対象にし、効果的な歩行練習が可能になります。

安全懸架装置(免荷歩行機器)を当院リハビリ部のリハビリプログラムに導入して、さらに効果的なリハビリテーションを提供していきます。(リハビリテーション部)



## 「地域包括ケア病床」を始めました！

当院 2 階療養病棟は、これまで医療療養病床 60 床で運用してきましたが、この度 11 月 1 日より、その内 30 床を『地域包括ケア病床』に転換しました。

『地域包括ケア病床』とは、急性期の治療を終え病状が安定した患者さんを対象に、在宅や介護施設への復帰に向けて、療養上の補助やリハビリの提供・病状管理などを行いながら次の生活場所への準備を行い、スタッフ皆で退院を支援していく病床です。入院期間は、当該病床入床後 60 日と国で定められています。

平成28年11月から

### 地域包括ケア病床


がはじまります！

平成28年11月より、地域包括ケア病床30床、医療療養病床30床の体制でスタートすることになりました。これまで同様、療養機能を果たしつつ、急性期治療終了後の患者さんや在宅にて療養されている患者さんを受け入れ、在宅復帰などを支援する機能を果たします。これまで以上にリハビリテーションの充実をはかり、地域の方が住み慣れた場所で生活できますよう支援していきます。

入院・療養・リハビリテーションなどのご相談は、当院地域連携相談センターへお願い致します。今後も、在宅医療を支えることを使命とし、地域の医療機関・事業所の皆さまにご利用いただきやすい施設を目指して参ります。

**\* 地域包括ケア病床の特徴**

- 入院期間は、最長60日以内
- 急性期治療を必要とせず、状態が安定している患者
- 平日リハビリテーションを受けられる
- 医療保険での入院となるため、介護保険の有無が不要



**\* 地域連携相談センターまでご連絡ください**

医療法人壽成会 花川病院 地域連携相談センター  
TEL : 0133-76-2727  
(平日 9:00~17:00)

これまで当院療養病棟は、胃瘻や気管切開・在宅酸素療法など医療上の管理が必要ながらも自宅で生活を継続されている患者さんを対象に、病状の管理やご家族のレスパイトを目的に短期間入院を受け入れてきましたが、『地域包括ケア病床』開始に伴い、これまで以上に地域の一社会資源として活用して頂ければと思います。

当院に寄せられる入院相談の例として「現在急性期病院に入院しており、今後家に帰る予定だが、介護保険サービスの調整や自宅の環境整備にもう少し時間がかかりそう」「急性期の治療は終わったものの、生活の場に移行するにはまだ不安があり、もう少し体調を整えてリハビリを行いたい」「家族の用事で家を留守にしなければいけないが、介護保険サービスのショートステイは利用が難しく困っている」「最近食事の量が減ってきているが、家族やサービスの対応では心配なので、体調が回復するまで一旦入院させてほしい」などがあります。

このような場合はぜひ当院にご相談下さい。なお、リハビリの実施についてはその方の病状・病名によって異なるため、問い合わせの上MSWへご相談下さい。

(MSWあきもと)

## 「笑顔」から気持ちがつながる心温まる接遇

『接遇マナー』といわれたら皆さんはどんな事を想像するでしょうか？

『接遇マナー』の意味は幅広く、挨拶や身だしなみ・人と話すときの言葉づかいなど、多岐にわたります。

今回はそのいろいろある中でも「表情」についてです。

突然ですが、いつもしかめっ面をしている人といつも笑顔でいる人。人はどちらに話しかけやすいでしょうか？

挨拶がきちんとできていても、言葉づかいがとても丁寧でも、その表情が「鬼の形相」であれば「できればこの人とはあまり関わりたくないな」と思うのは当たり前のことだと思います。しかし日々の業務の忙しい中で、なかなか意識できないのもこの「良い表情で仕事に向きあう」ということだと思います。

どのような職種でも、人との『コミュニケーション』は必要です。

病院という場所であるからこそ、患者さんやそのご家族に対して笑顔で対応するという事は大切なことだと思います。

では笑顔の効果とは一体何でしょう。ある人はこのような効果があると言っています。

- ・笑顔は信頼関係をつくる
- ・笑顔は苦しむ者にとっての太陽
- ・笑顔は失意の人にとっての光明
- ・笑顔は悩めるものにとって自然の解毒剤
- ・笑顔は疲れた者にとっての休養
- ・笑顔はコンプレックスを取り除き、足りないところを補う
- ・笑顔があれば仕事の成果もあがる

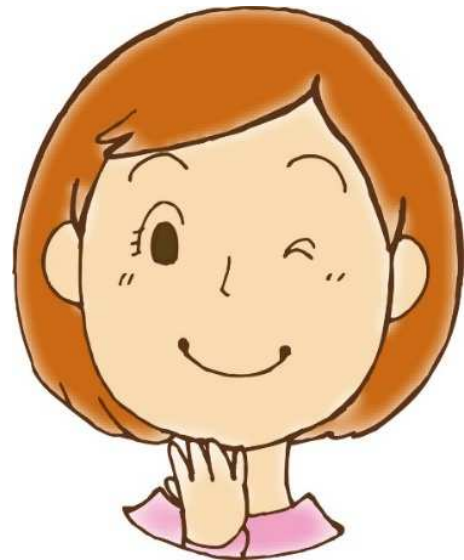
笑顔でいることで、相手に良い気持ちになってもらうだけではなく、自分の心の状態を落ち着かせる効果や良い関係を作る潤滑剤の役割も持ち合わせているのですね。

ここで注意したいのは、口元さえ笑っていれば笑顔だと思っていないませんか？

実は人が笑顔だと認識するポイントは「口元と目元」なのです。

特にこの冬の時期マスクをしていては口元が見えない…という状態も多いかと思いません。さて目元だけで笑顔を作れるのでしょうか？自分のためだけではなく周りにいる皆さんが心地よくいられるために、みなさんも鏡の前で挑戦してみてください。

(CS委員長いけだ)



## まめ知識「いざという時にあると便利な薬～その2～」

みなさんこんにちは。花川病院薬剤師の長谷川です。今回は、いざという時にあると便利な薬をご紹介します。薬剤師おススメの市販薬も、いくつかご紹介していますので、ご家庭の常備薬を揃える際にぜひ参考にして下さいね。

### お腹の痛みに

食あたり・水あたりなどの下痢症状に備えて、【正露丸】を常備しておくといいでしょう。においが気になる方には、【正露丸糖衣錠】が発売されているので、旅行の際に持ち運びがしやすいのではないのでしょうか。



食べ過ぎや胃のもたれなどに、胃薬も常備しておくといいでしょう。食後に痛みを感じる事が多い方は消化を助ける成分が入っている【パンシロン】などを、空腹時の痛みが多い方には【ガスター10】などの胃酸を抑えるお薬をおススメします。



ご紹介したお薬は、いざという時にあると便利な薬の一部ですが、家族構成によっては、必要なお薬が変わってくると思います。



どんなお薬を用意すれば良いのか困った時には、遠慮なく花川病院の薬剤師に相談してくださいね。

(薬剤師はせがわ)

## 生まれも育ちも北海道！プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」

花川病院が応援しているレバンガ北海道。今季より発足した B リーグ 1 部の東地区同率 4 位につけています。開幕直後にケガ人続出で苦しい戦いが続いていましたが、直近数試合は格上相手に同等の試合運びを見せるなど好転の兆しが見え始めています。

すでにご存じの方も多いかとは思いますがレバンガ北海道の略歴をご紹介します。

「レバンガ北海道」の前身は、2007 年に北海道に新設されたプロチーム「レラカムイ北海道」。しかしチームは運営会社の破綻が原因で存続の危機に追い込まれました。そのような中、チームの大黒柱だった折茂武彦選手が「このままではファンも自分自身をも裏切るようになってしまう」と熱い想いで自ら運営会社を設立。折茂選手兼代表の考えと行動力、そして「レバンガ北海道」の取り組みを知った竹川理事長はレバンガ北海道の活動を支援することに決定。



折茂選手兼代表は46歳にして現役プレイヤーとしてコートに立ってチームを引っ張っており、11月の名古屋戦では前人未達の9000得点を達成。まだまだ活躍が期待されます。

レギュラーシーズンはゴールデンウィークで終了。残りの試合での巻き返しを期待しましょう。



花川病院公式ブログではホームゲームの様子をリアルタイム更新しています。また、ホームアリーナの北海きたえーるでは花川病院ブースも出展しております

ので、観戦の際はぜひお立ち寄りください。(総務くぼ)

## 医師紹介「下道 正幸 医師」

花川病院の医師を皆さんにご紹介します。一緒に働く職員からの「〇〇先生のここが好き！」にもご注目ください。第4回目は「下道 正幸(したみち まさゆき)先生」です。

診療科目 内科

勤続年数 5年

趣味 山歩き、温泉(温泉ソムリエの資格取得している)

日頃心がけていること 体を気遣い、炭水化物制限をしていること

患者さん・ご家族へ一言 楽しく、わかりやすく病気と付き合っていきましょう！

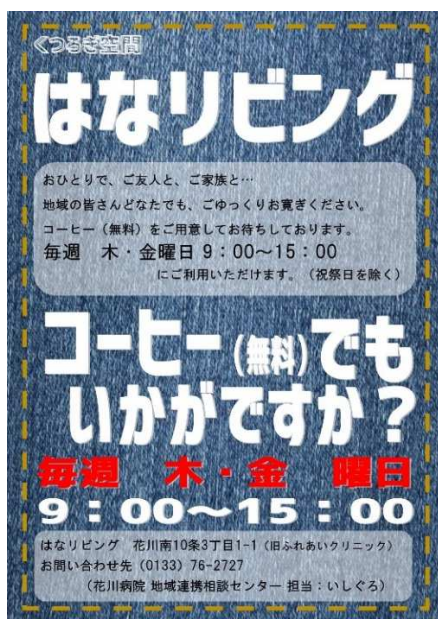
下道先生のここが好き！ 下道先生は脳

神経外科で働いていたため、脳疾患で入院した患者さんの画像をみながらわかりやすい説明やリハビリについての的確なアドバイスをご家族だけではなくスタッフにもしてくれま。また毎日、朝と夕方に患者さんのところへ足を運び、しっかりと話を聞いてくれたりいつも患者さんや病棟のことを考えてくれています。

医師としても、見た目(ヒゲを生やしているのも)貫禄があり、仕事では厳しい面もありますが、普段は場を盛り上げてくれ、皆を惹きつけるような話上手で、そんなギャップがとっても素敵なお先生です。(病棟 NS 一同)



## くつろぎ空間「はなりリビング」のご案内



「はなりリビング」とは、昨年8月に、ふれあいクリニック跡地（花川南10条3丁目1-1）にOPENしました地域の皆さんが気軽に集えるくつろぎ空間です。

毎週木・金曜日の9:00~15:00にコーヒーを無料で提供しています。

お友達と、おひとりで、ご家族と…のんびりコーヒーを楽しんでください。

幼稚園・保育園・小中学校の集まりや町内会の集まりでもぜひお立ち寄りください。もちろん、小さなお子様もご一緒にどうぞ。

気軽に立ち寄れる、安心してくつろげる、そんな地域のリビング的な存在になりたいと考えています。

金曜日の9:00~10:00に開催している「朝ヨガ」には毎回30名ほどの地域の皆さんが参加されます。「前よりも肩が動くようになった」「寝起きの腰痛が軽減された」など嬉しいお声をいただき、皆さんの健康意識の高さに頭が下がる思いです。

はなりリビングを利用された方からは「暖かい雰囲気でのんびりおしゃべりできました。また来ます。」「初めてきたけれどすごく良かった。知人と来る楽しみが増えました。」など、こちらも嬉しいお声をいただいています。

「はなりリビング」では今年から毎週木曜日10:00~12:00に装飾作りのボランティア活動を開始します。この活動は花川病院に飾るために画用紙や毛糸、フェルトなどを使って手作りの優しく暖かい季節の装飾を地域の皆さんに作成していただきます。今までにも院内に季節の装飾をしていましたが、より一層、賑やかに華やかにするべく皆さんのご協力をお願い申し上げます。

ご都合の良いときに気軽に参加できますので、活動にご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。（花川病院地域連携相談センター0133-76-2727 担当：いしぐろ）

寒い冬こそ、はなりリビングのコーヒーでホッと一息いかがですか？ご来場お待ちしております。（いしぐろ）

## 編集後記

明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

お正月休みで、心も体もふっくら満足という中、スタッフ総出で『つながる手と手～はなかわからのメッセージ～第12号』が完成いたしました。今年も新しい取り組みや行事、またプチ情報など役立つ情報盛り沢山でお届けしたいと考えております。

今年も何卒よろしくお願い致します。（かねこ）

